

提案事業名	みずほ台駅開設の日をみんなで祝う「みずほ台の日」
提案者	みずほ台の日実行委員会(実行委員長 大久保 勇次)
担当部署	産業振興課

1 事業の必要性

公共的な課題の解決や地域の活性化等について、現状を把握し、市民に必要とされている事業であるか。

- 意見 ・ ◎ 都市型まちおこし。地域活性化の好例となる。
- ・ 駅周辺が元気になることは、だれしも(市民)必要だと思う。
 - ・ 区画整理や道路の整備等、地形面での困難をふまえた上で、駅を中心として西口・東口が一体化できることを基本的なコンセプトとしている。
 - ・ 実行委員長の挨拶にあったとおり、市内3駅での乗降客は最下位であり、みずほ台地域の活性化の一助となりうる事業と言える。
 - ・ 「まちの衰退化」は、現代日本の大きな課題である。富士見市も例外ではないと考えられることから、必須な事業である。
 - ・ 必要だと思う。高齢化が進むにつれて身近な商店の活性化は必要である。
 - ・ 地域の活性化という部分については効果があると考ええる。
 - ・ 多くの市民に喜んでもらえる事業だと思う。
 - ・ みずほ台駅周辺に関わる賑わいづくりという意味合いでは必要。ただ、市民に必要とされている事業なのか？住民が参画できる要素があればなお良いと感じる。

2 公益性及び市民サービスの向上

不特定多数の市民の利益と、市民サービスの向上につながる事業であるか。

- 意見 ・ ◎ 住民の地域への愛着を増し、新たな定住者獲得や商業発展に役立つ。
- ・ 地域産業(商店会)の活性化に繋がる。
 - ・ 駅を利用するさまざまな人に対し、“単なるベッドタウン”ではなく“相乗的な定住”を呼びかけている。地元の事業者との間に顔の見える関係ができれば、“地元”への愛着が深まると共に、商業は活性化される。
 - ・ 街の活性化は、市民の利益とマッチすると考える。
 - ・ 地域のつながりを大事にして、それを訴え続けることは「市民の郷土愛」を育成していく。
 - ・ 市民1人1人のつながりが強くなっていくのではと期待する。
 - ・ みずほ台のみの「祭り」をどのように市全体の問題としていくかに関しては、課題があるように思う。
 - ・ 市民サービスの向上につながる事業であるかは今後の運用次第と感じる。全容としては不特定多数の市民の利益につながっていくのではないかと思う。

3 具体性継続発展性

事業計画が実行可能な方法、スケジュールに基づいて作成された事業であるか。

- 意見
- ・ ○ 事業をしている人たちであり、実行が可能。
 - ・ 作成されている。
 - ・ 半年前くらいから、ほぼ月に1度のペースで打合せを行い、段階を追って準備を進めている。
 - ・ 令和元年に実施しており、実行は実証済である。
 - ・ 広報活動、他機関との交渉役を担うであろう市との連携が重要である。
 - ・ スタンプラリーは子どもにも楽しめるし、また、実行可能な催しだと思える。
 - ・ 実行可能である。
 - ・ 実行可能と思われるスケジュールであるが、外的要因(主に台風)が心配される。

その事業に継続性があり、自主的な活動による発展性があるか。

- 意見
- ・ ◎ 開催実績あり。
 - ・ 継続発展に繋げてほしい。
 - ・ みずほ台駅の開業日、という節目での実施は、毎年恒例の行事として継続しやすいと思われる。
 - ・ 毎年行うとしており、また、構成員からも継続発展性は認められる。
 - ・ 提案(活動)団体の構成員のバランスをとり続けることで充分発展が見込める。
 - ・ 無理をせず、理想論を追わない事を考えれば出来る。
 - ・ 既に一度開催されている事を考えると、継続・発展はある。
 - ・ 発展性は感じる。様々な団体関わっていける余白があって良い。

4 適正な予算

事業内容に照らして、適正な予算の積算がされているか。

- 意見
- ・ ○
 - ・ 適正である。
 - ・ ポスティング代は郵送費か。各家庭へのポスティング業務の委託か。駅で配布する等、人の多い所で配布すればよいのではないか。
 - ・ 70万円弱の予算で、令和元年イベントが出来たとしたら、多くのボランティア的支援があったと推定している。
 - ・ 良
 - ・ 謝礼は、よく分からない。(クオリティーの問題)
 - ・ 提出書類では不十分である。
 - ・ しっかり出来ていると感じる。
 - ・ 委員より指摘のあったポスティングに関わる費用などもう少し精査をする必要を感じる。

5 協働の必要性

事業目的達成のための、提案者と市の協働の必要性が明確になっているか。

- 意見
- 行政の巻き込みを意識している。
 - ・ 明確である。
 - ・ 産業振興課との役割分担は、関連する条例の記載に準拠している。
 - ・ 提案内容とプレゼンでの説明から協働の必要性は明確化されている。
 - ・ 提案者の事業実施力と市の広報・啓発力が大切である。
 - ・ 市民主導と市の協働が、説明により明確で、よく理解出来る。
 - ・ 明確になっている。
 - ・ 明確であると感じる。

6 役割分担

提案者と市との役割分担が明確で、相互の特性を活かしているか。

- 意見
- - ・ 活かしている。
 - ・ 特に具体的な説明はなされなかった。
 - ・ 役割分担と特性を活かしていると言える。
 - ・ 提案者の事業実施と市の広報・啓発の役割は明確である。
 - ・ 市民の目線を考慮した分担だと思う。
 - ・ 広報や、会議の場でアドバイザー的な役割をされているとのことであるが、まだ活かされていない様子が伺えた。

7 協働の効果

提案者と市が協働で取り組むことにより、質の高い市民サービスを提供することができ、他の地域や他者へ成果の広がりが期待できるか。

- 意見
- - ・ 期待できる。
 - ・ 計画の段階から市のスタッフにも参加を要請する等、両者の連携はスムーズと思われた。今後は更に、駅を多く利用する大学への働きかけを予定しており、広がりが期待できる。
 - ・ 協働の効果は期待出来る。これを機会に、鶴瀬やふじみ野地区への拡大が図られるかもしれない(市の呼びかけにより)。
 - ・ 本事業は市と提案者の根気強い取組が効果をあげる。
 - ・ 大いに期待している。駅周辺に住んでいる自分も、淋しくなっていると思っていたので嬉しい。
 - ・ 他地域への広がりという部分は難しいのではないかと考える。
 - ・ 市としても、出来る限り共に協力する事が望ましいと思う。
 - ・ あくまでみずほ台駅ならではの地域課題と見受けられ他地域や他者への広がりには期待できないと推測される。

8 事業実施能力

提案者には、事業実施のために必要な体制等があり、市と効率よく連携を図ることができるか認められるか。

- 意見
- ・ ○ 商業主や町会長で構成しているので期待できる。
 - ・ 認められる。
 - ・ 市の広報への掲載は、非常に効果的である。今後は紙媒体だけでなく、インターネット等も利用して広報活動を展開できれば、より効果的になるのではないか。
 - ・ 本年実施しており、能力は実証されている。
 - ・ 良
 - ・ エリアに住んでいる市民の気持ちを、市の方達にも知って欲しいと思う。
 - ・ 認められる。
 - ・ 組織されている実行委員の力、影響力によるものが大変大きい。

事業の実施に対する熱意があると認められるか。

- 意見
- ・ ○ 会長はじめ、大いに熱意がある。
 - ・ 認められる。
 - ・ 非常に強い熱意が感じられた。
 - ・ 特に実行委員長の仕事に対する強い熱意を感じた。
 - ・ 充分感じられた。
 - ・ 熱意はよく伝わった。是非がんばってもらいたい。
 - ・ 認められる。
 - ・ 実行委員の皆様の熱意が感じられる。
 - ・ 日ごろ地域で活躍されている方々だからこそより良くしたいという熱意を感じる。

意見・評価

- ◎ 採択すべきである。意義があり、実行力もある。市には広報活動(広報富士見、折込、SNS、テレ玉)だけでなく、大学等への協力依頼もして欲しい。
- みずほ台駅開業42年、利用されている若い方(大学のサークル団体)等と連携を図ったらどうか。
- 現在の状況を客観的に分析し、実現可能なところから活動に着手して、徐々に範囲を拡大しているとの印象を受けた。すでに初回のイベントを実施して経験を積み、また、関係するスタッフの人数も一定の規模に達していることから、将来性・継続性という点においては、懸念すべき材料は見受けられない。提案者と市との役割分担・相互の特性を十分に活かしているかという点についての具体的な説明がもう少し欲しかった点だけが残念であった。結論として、協働事業として推進するに値する事業であると思料する。
- プレゼンでも述べさせていただいたが、ポスティング代は他の配布手段で軽減が可能だと思う。この経費をイベント費用に流用して、更に盛り上げたらどうかと思う。あるいは、今回のイベントで費用計上していない面(舞台設営等)があるのではと推測している。その部分の補填に充ててはどうか。
街の活性化は、市にとって必要であり、本事業は評価できる。
- 「地域のシンボル」たる「みずほ台駅」開業の日を中心に市民の交流事業の実施で、東西商店会の垣根を超えた「みずほ台は一つ」の合い言葉は、活動の広がりを期待させる。こういう活動を、地域と市が協働・連携を密にして根気強く進めることが、地域住民のふるさと意識を醸成し、更には富士見市の発展につながっていくと信じる。
事業の企画運営と参加者の両面に大学生を加えて小・中・高生の参加を工夫してほしい。地域事業の継続には若い人のつながりが必須である。
- 各町会によって、市民のまとまりに大きな差がある。働いて寝るだけとか、興味無いとかの言葉を聞いた時に淋しさを感じていたが、この計画を聞き、一住民として協力出来るようにがんばって、皆でつながっていけたらと期待する。
- 「みずほ台駅開設の日をみんなで祝う」とあるが、駅を管轄する東武鉄道との連携、関わりが全く示されていない。地域活性という部分で、祭りという手法を用いる事は一定程度理解できるが、市全体を見るとそれぞれの地域で独自に祭りが行われており、協働事業の公平性の観点からすると、受益者がみずほ台地域に限定される事なく、広く市民の為に開催される必要があると考える。企画書にもある「みずほ台は一つ」の合い言葉が「富士見市は一つ」となる様に更なるアイデアを期待したい。
また、懸念される今後の問題として、地域の祭りを開催するに当り他団体も協働事業提案制度を利用する可能性が高まり、祭りの為の補助金となってしまうのではないかと感じている。
- この街に育ち、成長していく子どもたちにとって、思い出深いまつりとして長く続けてほしい。
- 日付け次第だが、19日が平日の場合の開催内容はどうなるのか疑問に感じる。ベッドタウンとしての認識であるならば、就労世代が参加しやすい環境づくりが必要と感じる。
しかしながら様々な形で地域ひいては市域において貢献されている方々が本事業の中心として活躍されており、今後の発展やより精度の高い地域おこしに繋がっていくことと予測される。協働事業として採択していくことで地域のモチベーションアップにつながると思う。